

平成16年度
老人保健健康増進等事業
による研究報告書

平成16年度

高齢者認知症介護研究報告書

<痴呆性高齢者の地域包括ケアシステム推進および
尊厳維持に関する研究事業>

社会福祉法人 仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

まえがき

長寿社会を迎え、認知症が大きな課題としてとりあげられている。原因の追究、根本治療の開発は勿論であるが、現実に対面する最も重要なことは、介護をめぐる問題であろう。認知症が存在し、増加傾向にある現状の中では、介護は緊急を要する課題で、学際的立場から総力をあげて取り組む必要がある。

認知症介護研究・研修大府センターでは、設置準備段階からすでにこの問題を取りあげ、多角的な立場から検討を進めてきた。平成 16 年度もこうした一連の研究体制の中で、介護を実践するにあたり、中核となるいくつかの課題について、事業、研究が実施された。

認知症の在宅介護では、地域ぐるみの対応が重要であるとされているが、その内容や具体的な実施面で、まだ一定の見解がない。この点について、介護に関連する様々なグループを統合し、システム作りを模索してのモデル事業は重要で、今後の展開が期待される。認知症は、成因により病態にかなりの差異があり、介護の実践には、このことを念頭に推進する必要があると指摘されている。この意味で、レビー小体型痴呆、前頭側頭型痴呆とアルツハイマー型痴呆との比較研究は極めて興味があり、介護に焦点を合わせてのさらなる追求が必要であろう。

認知症介護での何がしかの介入が有効であるかどうかを明確にするためには、客観的指標をとりあげ、説得力あるデータを示すべきである。脳機能画像もその一つで、研究の方法論として、どのように組み込むかが重要とされる。認知症の日常生活行動で最も大切なことは、コミュニケーションの障害であろう。現実には、どのように障害されているのか、どんな点で問題があるのか、など様々なポイントを明らかにすることは、介護の実践の上で極めて重要である。また、認知症では、A D L が具体的に、どのような形で崩壊されているのか、その内容を詳細に分析することは、認知症の実態に迫る重要な一つの側面である。今回の研究で、これらの点についても鋭いメスが入れられ、これまでにないすぐれた成果が得られた。

認知症の介護には、検討を迫られている課題は山積みされており、多くの力を結集し有用な成果があげられるよう最大の努力が望まれる。

今回の成果は、その一端にすぎないが、認知症介護の領域で何らかの寄与をしたものと信ずる。これを土台に、さらなる飛躍、発展を期待したい。これらの貴重な事業、研究の推進に協力された多くの方々、大府センターの関係者の方々に深甚の謝意を表す。

平成17年3月

社会福祉法人 仁至会

理事長 祖父江 逸郎

目 次

平成 16 年度研究成果

- 1) 「大都市における認知症（痴呆性）高齢者を地域で支えるシステムづくり
モデル事業」…………… 1
主任研究者 柴山 漠人（認知症介護研究・研修大府センター）
分担研究者 黒川 豊（名古屋市千種区黒川医院）
研究協力者 中出 泰充（名古屋市千種区医師会）
小長谷 陽子（認知症介護研究・研修大府センター）
上松 正幸（名古屋市千種区池下やすらぎクリニック）他

- 2) 疾患別痴呆ケアの評価に関する研究事業
・アルツハイマー型痴呆・レビー小体型痴呆のケアに関する研究…………… 6
主任研究者 小阪憲司（福祉村病院）
分担研究者 藤城弘樹（名古屋大学大学院医学系研究科老年科学）
研究協力者 伊苅弘之（福祉村病院）
磯島大輔（福祉村病院）

・前頭側頭型痴呆のケア方法の確立と評価に関する研究…………… 12
主任研究者 池田学（愛媛大学医学部神経精神医学講座）
研究協力者 野村美千江（愛媛県立医療技術大学看護学科）
品川俊一郎（愛媛大学医学部神経精神医学講座）
松本直美（愛媛大学医学部神経精神医学講座）
繁信和恵（総合病院浅香山病院精神科）

- 3) 痴呆性高齢者に対する介入による変化の客観的指標の検討 主に脳機能画像に
おける変化を中心に …………… 17
主任研究者 武田章敬（国立長寿医療センター アルツハイマー型痴呆科）
研究協力者 鷲見幸彦（国立長寿医療センター 外来診療部）
加藤隆司（国立長寿医療センター 長寿脳科学研究部）
伊藤健吾（国立長寿医療センター 脳病態生理研究室）
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター 研究部）
川合圭成（名古屋大学大学院医学研究科神経内科学）
祖父江 元（名古屋大学大学院医学研究科神経内科学）

- 4) 簡易コミュニケーションスケール（軽度痴呆用）作成の試み…………… 21
主任研究者 川合圭成（国立大学法人名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）

分担研究者 武田章敬（国立長寿医療センター アルツハイマー型痴呆科）
祖父江元（国立大学法人名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）
小長谷陽子（高齢者認知症介護研究・研修大府センター）
相原喜子（国立長寿医療センター研究所長寿脳科学研究部）
桑畠 愛（名古屋大学医学部神経内科）

5) 認知症高齢者の Evidence Based Care

- A D L 崩壊過程とその対応に関する研究 - 29

主任研究者 小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター）
分担研究者 杉村公也（名古屋大学医学部保健学科）
研究協力者 田川義勝（名古屋大学医学部保健学科）
渡邊憲子（名古屋大学医学部保健学科）
白石成明（小山田記念温泉病院）
小酒部聡江（介護老人保健施設ルミナス大府）
川村享平（名古屋大学大学院医学系研究科前期課程）

6) 認知症介護指導者養成研修の評価に関する研究..... 51

主任研究者 可知昭江（認知症介護研究・研修大府センター）
研究協力者 福山 譲（社団邦人中部産業連盟）
正木勝秋（元人事院総務局参事官）
前川厚子（名古屋大学医学部保健学科）
奥宮さだ子（聖隷福祉事業団看護介護研修センター）
永坂トシエ（社団法人 愛知看護協会）
柿本 誠（認知症介護研究・研修大府センター）
藤本 茂（認知症介護研究・研修大府センター）

7) 資料